

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.12.15 No.153 連絡先 FAX 042-555-1911



オスプレイ 沖縄で配備後初の兵士降下訓練 無灯火での離着陸も

米海兵隊のオスプレイは12月4日、沖縄県金武町の米軍ブルービーチ訓練場で、配備後初めてとなる、兵隊のつり下ろし訓練を実施しました。金武町によると、尾翼の赤い隊長機（右写真：米軍HPより）が午後2時ごろから約2時間、ブルービーチのヘリパッドを使い、ホバリングと着陸を数回繰り返す中で降下訓練を実施。機体を約30メートルの高さで空中停止している間、後方のドアからロープを垂らし、少なくとも兵士4人がロープを伝って地上に降りていたということです。その後、計3機が夜間飛行訓練を実施し、無灯火での離着陸や市街地上空での旋回、明かりを消した滑走路に着陸するなど、実戦を想定したような訓練が行われました。那覇新都心上空でも、無灯火飛行が確認されました。



また、10日午前11時すぎには、オスプレイ4機が米軍伊江島補助飛行場へ同時に飛来。同村役場によると、4機が同時に飛行場を使用するのは初めて。10メートルほどの間隔で一直線に並び、離着陸と旋回を3回以上繰り返したほか、2機ずつの編隊飛行訓練を約1時間半実施しました。

オスプレイ本格運用を米司令官が明言 本土での低空訓練も実施

アンジェレラ在日米軍司令官は6日、東京都内で記者会見し、米軍普天間飛行場に配備された12機の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイが1日から本格運用に入ったことを明らかにしました。

日本本土上空での低空飛行訓練については「そう遠くない将来に実施される」と説明。

日本本土での低空飛行訓練については、安全高度150メートル以上での飛行や、原発や人口密集地上空の飛行を回避するとの日米間の合意を守るとしながら、低空飛行訓練の必要性を強調。

また、沖縄県が求める日米地位協定の改定については「米国人に対する平等な扱いが確保されており、改定する必要はない」と改定を否定しました。このことについて、沖縄タイムスの社説（12月8日）は、「地位協定 なぜ議論がないのか」「沖縄から見れば、日米地位協定は『不平等』の最たるものだ。」とし、この発言を「見過ごすわけにはいかない。」としています。

日米地位協定の抜本的見直し 新宿区議会が 全会一致で可決

新宿区議会は11日の定例会議で、沖縄県内で相次ぐ米兵事件について意見書を全会一致で可決し、日米地位協定の抜本的見直しや米兵の基地外への外出禁止強化を求めました。

日本平和委員会が 《北朝鮮の「ロケット」発射強行について》 声明

《北朝鮮政府は、12月12日朝、国際社会の中止を求める声押し切って、国連決議に違反する「人工衛星」と称する「ロケット」の発射を強行した。私たちは、東アジアの緊張を高め、情勢を不安定化するこのような行為に、強い遺憾の意を表明するものである。

私たちは、北朝鮮に対し、核兵器と弾道ミサイル開発をただちに中止し、朝鮮半島の非核化と北東アジアの平和の実現をめざす2005年の6カ国協議の共同声明に立ち返り、6カ国協議へ復帰すべきことを、ここに改めて求めるものである。それこそが、北朝鮮を含むこの地域の平和と安全をたしかなものとする道である。また、日本政府はじめ関係各国が、軍事的緊張を高める行為を慎み、問題の平和的外交的解決のためにイニシアチブを発揮することを求めるものである。 2012年12月12日 》

仙台駐屯地などで ヤマサクラ 63 豪、在韓米軍も参加 (No. 153 の裏面)

陸自と米陸軍、米海兵隊による連携と相互運用性の向上を目的とした 2012 年度「日米共同方面隊指揮所演習」(ヤマサクラ 63) が、12 月 1 日から 13 日まで、仙台駐屯地などで行われました。(右米軍 HP)

豪陸軍からは昨年に引き続き、約 10 人のオブザーバー隊員が来日。また、豪陸軍少将が、米太平洋陸軍副司令官として初めて同ポストの立場で参加し、日米豪の連携をアピールしました。



このほか、自治体や関係機関が参加し、武力攻撃事態における国民保護措置も演練されました。今回は東北方面隊の担任で、日本側は田中東北方総監を統裁官に、東北方面隊、6、9 師団、中央即応集団 (CRF)、陸幕など約 4,500 人が参加。

米側は米太平洋陸軍司令官のワーシンスキー中將を統裁官に、米太平洋陸軍、25 師団のほか、沖縄から米第 3 海兵機動展開部隊、韓国から在韓米軍第 8 軍の計約 1,500 人が参加し、東アジアにおける連携強化を目指しました。特に今回は、東日本大震災に対応した東北方面隊と、「トモダチ作戦」の実行部隊である米軍との大規模指揮所演習が特徴で、震災対応の教訓を踏まえ、多様な事態における日米の相互運用性の向上を図りました。

同演習は、陸自と米陸上部隊がそれぞれの指揮系統に従って円滑な共同作戦ができるよう、方面隊以下の指揮幕僚活動を演練するもので、今回が 63 回目。昭和 56 年度から毎年 2 回、日米で交互に行われており、日本側は毎年、各方面隊が持ち回りで実施しています。

君塚陸幕長は 11 月 29 日の記者会見で、「アジア太平洋地域の安全保障、日米豪の連携強化の観点から意義ある演習。日米安保体制の信頼性と抑止効果を高めたい」と演習の意義を述べました。

航空自衛隊 ミズーリ州の高度空輸戦術を学ぶ



12 月 6 日付朝雲ニュースによると、空自 1 輸空 (司令・荒木淳一将補、小牧) は 11 月 27 日、早瀬岳秀 3 佐以下 24 人と C130H 輸送機 1 機を米国ミズーリ州の高等空輸戦術訓練センターに派遣。同州のローズ・クランス州空軍基地、アリゾナ州のリビー陸軍飛行場と周辺空域で低高度航法、物料投下などの戦術空輸訓練を 12 月 19 日まで行っているそうです。同センターの訓練に空自機が参加するの (写真: 12/7 付米空軍 HP より) は平成 19 年の初参加以来 5 回目だそうです。

武力攻撃事態を想定 日米共同統合実動演習 47,400人参加して実施

2012 年度の日米共同統合実動演習 (キーン・ソード) が 11 月 5 日から始まり、11 月 16 日、終了しました。実施された訓練は、(1) 陸上・海上・航空作戦 (2) 基地警備 (3) 統合・共同輸送 (4) 捜索救助活動一などで、武力攻撃事態における日米共同の対処能力向上を図るのが目的です。

日本側は岩崎統幕長を統裁官に、統幕、陸海空自の約 37,400 人、艦艇約 30 隻、航空機約 240 機を展開しました。陸自が北部、西部両方面隊、中央即応集団など、海自が自艦隊、佐世保地方隊など、空自が航空総隊、支援集団などから参加しました。

米側は在日米軍司令官サルバトーレ・アンジェレラ空軍中將を統裁官に、在日米軍司令部、在日米陸軍、第 7 艦隊、太平洋空軍、第 3 海兵機動展開部隊 (沖縄) などから人員約 1 万人が参加。過去最大規模となった前回とほぼ同数が参加しました。同演習は、今回で 11 回目です。

戦争はイヤ！平和がいいね！ 